

第2回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会

日時：平成27年10月28日（水） 午後1時30分～午後4時

場所：港北区役所4階 特別会議室

議事次第

1 開会

2 議題

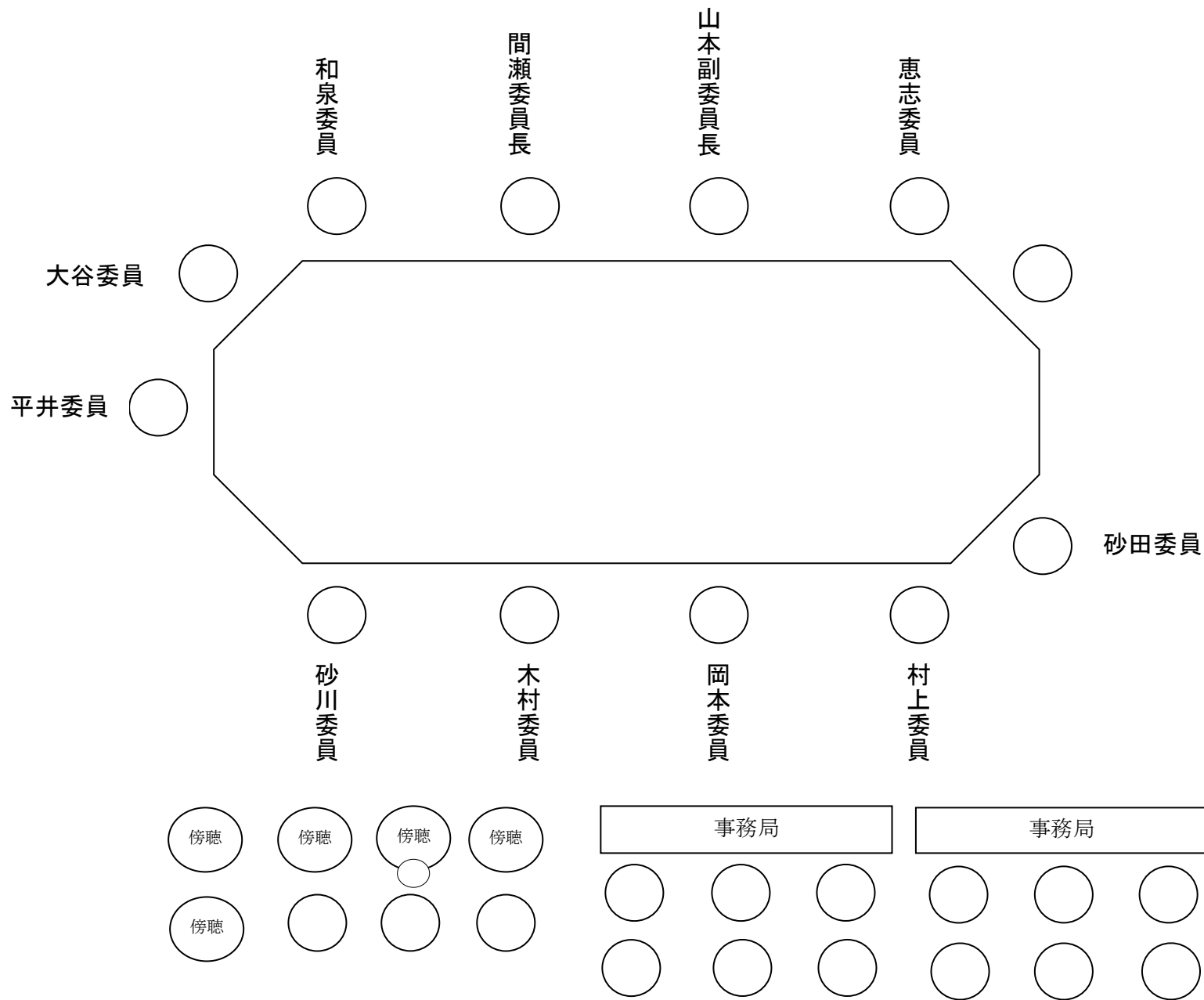
- (1) 第1回委員会会議録の確認について【資料2】
- (2) 区民文化センターニュース 第2号の発行について【資料3】
- (3) 区民文化センターの施設構成・内容、運営・コンセプトに関する意見交換
【資料4・5】

資料目次

資料1	第2回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表
資料2	第1回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録
資料3	港北区 区民文化センターニュース 第2号（案）
資料4	区民文化センターの施設構成・内容、運営・コンセプトについて
資料5	区民文化センターの分類

第2回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表
平成27年10月28日(水) 午後1時30分～午後4時 港北区役所特別会議室

資料1



第 1 回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録	
日 時	平成 27 年 8 月 27 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 4 時
開 催 場 所	港北区役所特別会議室
出 席 者	<p>【委員】 間瀬勝一委員長、山本貞副委員長、和泉利政委員、稲田奈緒美委員、恵志美奈子委員、大谷宗弘委員、岡本直美委員、木村江里委員、砂川由利子委員、平井誠二委員、村上テル子委員 (委員は五十音順)</p> <p>【事務局】 港北区長、港北区副区長、港北区区政推進課長、港北区地域振興課長、文化観光局文化振興課長、有限会社空間創造研究所 ほか関係職員</p>
欠 席 者	砂田俊彦委員
開 催 形 態	公開 (傍聴者なし)
議 題	1 委員長及び副委員長の選任について 2 事務局説明 (区民文化センターについて/整備予定地の概要/港北区の地勢・特徴と他の文化施設の利用状況/他文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップ等の事例) 3 意見交換 4 区民文化センターニュース 第 1 号の発行について
決 定 事 項	1 委員長に間瀬勝一委員、副委員長に山本貞委員を選任する。 2 本日出された各委員の意見を事務局にてまとめ、次回検討の参考とする。
議 事	<p>開会</p> <p>・ 区長挨拶 (港北区長) この度は当委員会の委員をお引き受けいただき、また御多忙の中、第 1 回委員会に御出席いただいたことに感謝申し上げたい。</p> <p>港北区では、区民の皆様による文化芸術活動が盛んに行われており、毎年区を挙げて開催している「港北芸術祭」には、多くの区民の皆様の御協力をいただき、様々なジャンルの文化・芸術に親しんでいただいている。また、港北公会堂や大倉山記念館、地区センター等では、多くの区民の皆様が、日々様々な文化芸術活動を楽しまれている。</p> <p>しかしながら、そのような状況の中で、区民文化センターが整備されていないことが長年の懸案となっていた。市内各区に区民文化センターの整備が進められてきており、現在、18 区中 10 区に整備されている。</p> <p>この度、港北区においても新綱島駅周辺の再開発に伴い、区民文化センターを整備する方針となった。港北区の新たな文化芸術拠点として、また、再開発が進む街の新たな顔として、区民に喜ばれ、長年親しまれる区民文化センターを整備していきたい。</p>

早速本日より委員の皆様の豊富な御経験・御見識に基づく忌憚のない意見を頂ければと思う。どうぞよろしくお願ひしたい。

(区政推進課長) 委員・事務局紹介(資料1・資料2)
委員会の位置づけ・検討スケジュールについて説明
(資料3・資料4)

1 委員長・副委員長の選任

・委員長に間瀬委員、副委員長に山本委員を選任。以降の議事を間瀬委員長に一任。

(間瀬委員長) では、これより議事に入るが、その前に事務局より定足数の確認をお願ひしたい。

(事務局) 「横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」の第6条第2項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。」と定められている。本日の出席委員数は、現在定数12人のうち11人である。
よって、出席委員数は半数以上で、本会が成立していることを報告する。

2 事務局説明(区民文化センターについて/整備予定地の概要/港北区の地勢・特徴と他の文化施設の利用状況/他文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップ等の事例)

(間瀬委員長) それでは、条例に基づき本委員会が成立していることが確認できたので、これより議事に入る。

今回の委員会では、これから4回の委員会で議論するにあたっての基本情報の共有からはじめていきたい。その後、自己紹介も兼ねて皆さんから一言ずつ頂きながら、意見交換を進めていきたい。

では、事務局より配布資料の説明をお願ひしたい。

(事務局) 資料5について説明

(空間創造研究所) 資料6について説明

3 意見交換

(間瀬委員長) 意見交換を行う。各委員においては自己紹介と、区民文化センターに望むことを御発言いただきたい。

(和泉委員) 港北区連合町内会会長と大曽根自治連合会会長を兼任して務めている。現段階で区民文化センターに対する特別な希望はないが、これからの議論の中で、各委員のお考えとともに検討していきたい。

(大谷委員) 綱島地区連合自治会会長を務めている。新たに区民文化センターが建設されることを大変光栄に思っている。綱島は鶴見川が近くを流れ、歴史的に交通の要所であったということが特徴である。

区民文化センターが建てられることは、綱島の歴史を継承していく意味でも重要な意味を持つ。再開発という大きな事業を通して、綱島が大きく変わるチャンスが訪れた。このチャンスを生かして、区民文化センターを港北の文化の発信基地にしていくことが地域の使命であると考えている。

地区の連合会長としてこのような機会に関わるのは重要なことと受け止めている。意義のある施設を開館させ、港北区や綱島の文化の発信基地となることが、区民のためにも地域のためにも重要である。区民文化センターはキーポイントとなる施設であると考えている。

(平井委員) 大倉精神文化研究所に勤めている。本研究所は大倉山記念館の中にあり、大倉山記念館は元々研究所の本館として造られた。文化施設として整備された建物ではないので、使い勝手やアクセスは良いとは言えないだろう。それでもピアノ練習や展示が可能であり、利用料金も低廉なために稼働率が高い。

大倉山記念館も含め、区内の文化施設は、駅から遠い場所に整備されていることが多く、高齢者の方などがアクセスするのに困難な部分がある。新たな区民文化センターが新駅に連絡しているのは利便性の面で非常によい。文化施設としてだけでなく、行政的な機能も果たす施設になると考える。

私の専門から言うと、ギャラリーや情報コーナーに関心がある。区内施設には展示スペースがきちんと整備されている施設が少ない。港北区は歴史も古く、江戸時代からの資料も数多く存在している。そういったものを見ていただける展示スペースも考えていただければと考えている。

情報コーナーでは芸術文化の書籍なども提供するということがだが、書籍であれば、区内に港北図書館があるので、その蓄積された情報とは別に単館で情報提供を行うのはもったいないと考える。難しいかもしれないが、新駅に連絡しているこの建物で図書館の本の貸出しや返却ができれば、独自に本を買い揃えなくても区民文化センター利用者が芸術文化の本を借りることができるのではないか。

地域の特徴からいうと、中心に流れる鶴見川が歴史的に重要である。港北公会堂の緞帳も地域の特性を活かして鶴見川がデザインされている。綱島温泉や桃栽培などの地場産業もいずれも綱島から生まれたものである。

戦前の話だが、綱島のまちを一望できる桃雲台と呼ばれた高台があった。位置的に、区民文化センターの4階、5階からは、桃台の場所から見えた景色が見えるかもしれない。そういった地域の特性をデザインやコンセプトに生かすような提案ができれば嬉しいと思う。

(砂川委員)

港北区合唱の会に所属している。当合唱団の活動は56年目を迎えた。区役所の落成式でも合唱を披露するなど、区との関わりも深い。現在は30名弱での活動を行っている。

以前は合唱練習の場所として公会堂を利用していたが、かつて利用料金が上がったことがあったため、現在は川崎市や大田区の施設や、神奈川区民文化センターや鶴見区民文化センターなど、場所を転々としながら練習を続けている。このような団体は多い。

現状の問題点として、練習室の不足や、あっても駅からのアクセスが悪いという点がある。今は練習場所が足りないために、狭い諸室で練習せざるをえない。今日の建築技術を持ってすれば、利用人数に合わせて部屋の広さが可変でき、練習利用や会議利用など多目的に利用できる諸室を整備することが可能なのではないかと考えている。

以前、リハーサル出来る場所がないのでアップライトピアノでも良いので置いて欲しいと公会堂にお願いしたが難しいとのことであり、現在もキーボードでリハーサルを行っている。中にはグランドピアノでの練習を希望する団体もある。

また、公会堂は600席程度なので、1日で合唱の発表を行うためには、前半と後半を入れ替えねばならない。区には他にも合唱活動を行っている団体があり、全体でみると合唱の参加人数だけで600人を超える。可能であれば、もう少しキャパシティの大き

なホールを整備することを検討いただければと思う。

(木村委員)

港北ダンスフェスティバル実行委員会委員長を務めている。毎年11月末頃、公会堂にて市民団体12団体程度で港北ダンスフェスティバルとして合同発表会を行っている。出演者は250名程度おり、年齢層も幼稚園から50・60代までと幅広い。お客様も出演者1人に対して5～6人くらいいらっしゃる。概ね1,200人程度の観客が入れ替わり鑑賞している。それだけの参加者がいると、舞台袖の広さや楽屋が悩みの種になっている。新たな区民文化センターでは、防音や床の質にも考慮して、リハーサルができるスペースができるとよいと考えている。

先ほど、「区民文化センターは文化芸術の拠点になる」という話を頂いたが、港北区内には、ダンスや合唱、交響楽団など、様々な団体がある。現在は、団体同士が出会い交流するチャンスが無く、それぞれが単発で活動をしている。区民文化センターができたら、団体同士が繋がり、一緒に舞台を創れるようなことができたらいいと考えている。

(岡本委員)

港北区民ミュージカル実行委員会に所属している。平成15年から活動を続けており、今年で13回目の公演を行う。地域の問題を題材に、小学生以上を出演者としてミュージカルを創っている。

毎年公会堂で公演をしているが、舞台が狭い、音響や照明が足りないといった点に不便さを感じている。機材については公会堂の備品では足りないために、持ち込みで公演を行っている。

出演者は40～50名程度おり、昨年度は5回公演を行い、約1,700人を動員した。ホールが新たになると音響や照明は良くなり改善されるだろう。しかし、客席数が少ないのではないかとと思うので、その辺りは検討をお願いしたい。

最近では市民活動が盛んになってきたこともあり、練習場所を確保することが大変になってきた。大勢で練習できる、できれば100㎡以上あるリハーサル室のような場所を整備いただければと思う。

団体同士の交流については、木村委員がおっしゃったことと同意見である。

(村上委員)

港北芸能協会に所属している。当協会は約35年活動を続けており、毎年春と秋に公会堂で発表会を行っている。今は音響に一

	<p>番困っているが、新しいホールでは解決できることと考えている。また、踊りの場合は舞台の間口だけでなく奥行も大切である。</p> <p>通常の区民文化センターの客席数では少ないのではないかと感じているが、予算制約があるのも承知している。</p> <p>今の時代は古典離れをしていると感じている。着物など、昔からの習慣を伝えていくことにも貢献したい。</p> <p>(稲田委員) 舞踊の研究者、評論家をしている。</p> <p>先ほど、資料にて全国ホール施設での事例を御紹介いただいたが、私自身もあのような事業をかなり観てきた。</p> <p>現在、文化庁が日本版のアーツカウンシルを作ろうとしている。アーツカウンシルとは、英国から生まれた、文化芸術を支援するための専門機関である。そうした中で、私は、日本芸術文化振興会の舞踊分野のプログラムオフィサーとして、観客の動員や売上などの定量的なデータではなく、作品の質などの定性的な部分も含めた評価を行っている。</p> <p>この場では、全国でどのような施設や団体があり、どのような評価がされているのか。また、助成金を得るためには何が重要かなどの情報をお伝えしたいと考えている。</p> <p>ここ 10 年ほど、日本の文化政策は頂点の伸長と裾野の拡大で進んできた。今は頂点の伸長だけでなく、裾野をいかに広げていくか、文化芸術が社会的包摂の役割を果たすことが求められている。文化芸術を通して、地域の医療や福祉や教育など様々なものとどう関わっていったらよいか、という視点でお話できればと思う。</p> <p>私個人も、石川町近くの寿町にて行われている、ダンスで地域参加を行うという活動にボランティアで参加している。様々な視点からの情報を提供させていただければと考えている。</p> <p>(恵志委員) 私の所属している世田谷パブリックシアターは演劇とダンスの専門劇場だが、世田谷区の文化施設なので区民に対してどういった活動を行うかということ日々考えている。世田谷パブリックシアターには制作と学芸という 2 つのセクションがある。</p> <p>制作は、世田谷パブリックシアターとシアター tram という 2 つの劇場で、どういった演目を上演し、どうプロデュースしていくかを担当するセクションである。学芸は、区内の小中学校へのアウトリーチや、劇場の稽古場でのワークショップなど、主に区民に向けた活動を担当するセクションである。</p>
--	--

東京という特性もあり、来場者のうち区民割合というのは高くない。一方、小中高校生を対象としたワークショップ等では区民の参加者が7～8割、大人が対象だと約半数が区民になっている。

新たな区民文化センターの建設にあたり、地域文化をどのようにつくっていくか、どのような拠点になるかという話が出ているが、何をもって「地域文化の拠点」というのかのコンセンサスをとるのは難しい。皆様が色々な立場から色々なお考えをお持ちである。また、区民が活動している文化活動も数多くある。それらをどう繋いで港北区の芸術をどう見せていくか、ということが重要だと感じた。また、アウトリーチ事業も検討されているとのことだが、そういう点において私の経験をお伝えできるのではないかと思っている。

世田谷パブリックシアターは年間でワークショップは300回程度、アウトリーチは260回程度行っている。学校へアウトリーチ活動を行うようになってから約10年が経過し、ようやく活動が根付いたと感じられる。

劇場として区民に向けた取り組みとしては、「フリーステージ」という発表会の場を設けている。年間のうち区内の団体が劇場を利用できる期間を設け、劇場の技術スタッフが音響や照明のサポートをして発表会などを一緒に創っていく。

また、地域の商店街を巻き込んだ活動としては、「アートタウン」という大道芸のフェスティバルを実施している。主に商店街が横の繋がりを持ち、市民ボランティアを巻き込んで三軒茶屋のアートフェスティバルとして行っている。

皆さんのお話を伺いながら、港北区でもそういった活動も可能かと考えていた。

(山本副委員長) 二紀会に所属し、毎年国立新美術館で展示を行っている。国立新美術館は貸会場を整備しているという特徴がある。また、地下鉄の駅と直結しており、天気に関係なくアクセスできるというメリットがある。今回の区民文化センターも、新駅と連絡している。こういった施設は、アクセスが非常に重要である。

国立新美術館などは様々なジャンルの作品を取り扱っているので、様々な人が訪れている。区民文化センターも、区民に利用されたり、事業を行うことで、他のジャンルに興味を持ったり、交流が生まれることもあると思う。美術の分野でも、お役にたてることがあればと考えている。

(間瀬委員長) この区民文化センターの良い点は、駅から近い場所に整備されるということである。雨の日でも傘をささずにホールまで来られるということは、お客様が来場しやすいということである。お客様が来場しやすいということは、活動の幅が広がることに繋がり、それによって様々なジャンルの事業を展開することが可能となり、結果として様々なお客様を呼ぶことができる。そのことから新たな気づきが生まれると考えている。現在、区民の皆さんは幅広いジャンルで活動をされている。これまでに興味が無かった方や他のジャンルで活躍されている方が他ジャンルのものに触れることにより、様々なものがあると気づく拠点になるとよい。

そのためには、ホールではなくリハーサル室を充実させることが必要である。また、ギャラリーは自分たちの作品が発表でき、お客様を呼びやすい場所として活用できるだろう。

今日の地域の劇場やホール、区民文化センターは、社会包摂という考え方が重要になってきている。何かを観たいと思っても出にくい環境の方、例えば子育て中の方や一人暮らしの老人が来やすい環境が求められている。そういう意味でも、区民文化センターが駅に近いというのは、メリットだと思う。

また、文化団体の連携も取り組めると良い。まずは第一段階として顔合わせから行い、将来的には音楽と美術などの異なるジャンルと一緒に活動できるとよいと考えている。最近はそのような取り組みが段々と始まっており、絵画の前で絵画に関する音楽を演奏するなどの取り組みが行われている。区民文化センターのギャラリーでは、市民の皆さんの発想次第で、そのような取り組みができるだろうと考えている。

文化団体の連携に取り組むことは、区民文化センターの役割と考えている。運営の仕方の部分だが、そういったことを施設の配置なども含めて御検討いただくことで、文化団体からより親しまれる施設になるだろう。

今回出た意見については事務局でまとめていただき、次回の議論の際の参考としたいと思う。

一言ずつお話しいただいたところで、追加で意見がある方がいれば、お願いしたい。

(大谷委員) 区民文化センターのホールの客席数は300席とのことだが、やはり座席数が少ないのではないかと。施設の制約があることも承知しているが、何とか出来る限り席数の確保について配慮してほしい。

	<p>(間瀬委員長) 区民文化センターの館長を務めた経験があるので、館長の立場から言うと、600席で少ないと感じることも、300席で多いと感じることもどちらもあった。区民文化センターという施設のカテゴリーの中で、客席数をどうするかということについては色々な意見があるということも重々承知している。事務局でも検討いただければと思う。</p> <p>4 区民文化センターニュース 第1号の発行について</p> <p>(事務局) 資料7について説明</p> <p>(間瀬委員長) 本件について御異議・御質問等はないか。</p> <p>(委員) 発声なし</p> <p>(間瀬委員長) では、ニュース第1号については、事務局説明のとおり、発行をお願いしたい。 これで、本日の審議事項は全て終了した。</p> <p>閉会</p>
<p>資 料 ・ 特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <p>資料1 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 委員名簿</p> <p>資料2 第1回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表</p> <p>資料3 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会条例</p> <p>資料4 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 検討スケジュール</p> <p>資料5 区民文化センターについて／整備予定地の概要／港北区の地勢・特徴と他の文化施設の利用状況</p> <p>資料6 他文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップ等の実例</p> <p>資料7 港北区 区民文化センターニュース 第1号(案)</p> <p>2 特記事項</p> <p>次回は、平成27年10月28日(水)午後1時半から開催予定。 場所は港北区役所特別会議室を予定。</p>

発行：平成27年11月11日

港北区では、相鉄・東急直通線の新駅整備を契機に行われる綱島駅東口周辺のまちづくりに合わせて、区の文化芸術活動の拠点として区民文化センターの整備を進めることとなりました。

現在、区民文化センターが区民の皆さんにとって「身近な文化活動の拠点」となるよう、「横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会」を開催し、施設の基本的な方向性や、求められる機能、施設の管理運営や事業等について検討を行っています。

■ 第1回委員会で議論された内容について

8月27日(木)に第1回委員会が港北区役所において開催されました。

最初に事務局から、区民文化センターの概要や、整備予定地の概要、港北区の地勢・特徴と近隣の文化施設の状況などの説明の後、市内外の文化施設の運営事例を紹介し、最後に意見交換を行いました。

■ 区民文化センターの機能とは

委員会では、区民文化センターの機能について、ホールのタイプ（形状）や運営面など各館の事例を取り上げながら紹介しました。



緑区「みどりアートパーク」
(多目的ホール)



栄区「リリス」
(音楽系ホール)



泉区「テアトルフォンテ」
(演劇系ホール)



海外演奏家と地域のアーティスト
の交流事業（磯子区「杉田劇場」）



小学校向けアウトリーチ※

※区民文化センターでは、館内での公演事業に留まらず、小学校や公共施設などに演奏家などが出向いて、文化芸術の普及啓発を行う「アウトリーチ」という取組が行われています。

■ 委員から寄せられた主な意見

委員会の後半の意見交換では、各委員から下記のような意見が寄せられました。

- 「現状では練習場所が不足していて、団体の活動場所の確保が難しくなっている」
- 「公会堂では音響や照明が不足しているので、区民文化センターでは充実させてほしい」
- 「可能であれば、ホールの客席数を多くしてほしい」
- 「文化団体同士が、区民文化センターでつながり、分野を越え新しいものを創れるようになるとうい」
- 「高齢者や子育て家庭など様々な人が区民文化センターを通じ文化に触れる機会を設けることが重要」
- 「地域の文化団体や、商店街などを巻き込みながら、様々な文化活動を展開していく事例もあるので、港北区でも区民文化センターができることで、そうした幅広い活動が可能になると思う」

■ 委員向けの区民文化センター見学会を行いました

委員の皆さんに区民文化センターに関する検討を進めていただく上での参考として、9月24日(木)に「緑区民文化センター みどりアートパーク」、同28日(月)に「神奈川区民文化センター かなっくホール」の委員向け見学会を実施しました。

●緑区民文化センター みどりアートパーク

みどりアートパークは、JR・東急長津田駅北口から徒歩4分のところにあり、平成25年10月に開館した市内10館の中で最も新しい区民文化センターです。

リハーサル室とホールの舞台の広さが同じという特徴がある点について、委員からは「利用団体に配慮されていて良いと思う」といった感想が聞かれました。



●神奈川区民文化センター かなっくホール

かなっくホールは、JR東神奈川駅・京急仲木戸駅から徒歩1分のところにあり、両駅から歩道橋で直接入ることができる施設です。平成16年7月の開館で、市内で6番目に開館した区民文化センターです。

委員からは「構造がやや入り組んでいるものの、狭い面積を有効に活用して施設が整備されている」といった感想が聞かれました。



■ 第2回委員会が開催されました

10月28日(水)に第2回委員会が開催されました。議論の内容については次号のニュースにてお知らせします。

■今後の委員会スケジュール(予定)

	日時	検討内容
第3回	平成27年11月25日(水) 午後1時半～午後4時	施設構成や事業運営の方向性の確認、答申(案)の議論
第4回	平成28年1月28日(木) 午後1時半～午後4時	答申・答申概要版の議論・確定

※スケジュールは会議の進捗により変更となる場合があります。
※委員会において決定された答申は市長へ提出されます。

区民文化センターについて御意見がありましたら、下記の間合せ先に文書(FAX・Eメール・郵便)にてお寄せください。頂いた御意見への回答は行いませんが、委員会を進めていくにあたっての参考とさせていただきます。

発行:横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会事務局(横浜市港北区役所 区政推進課)

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町26-1



電話:045-540-2229 FAX:045-540-2209 Eメール:ko-kusei@city.yokohama.jp

ホームページ:http://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/suisin/kikaku/kubunkentou/

1 施設の構成・内容

■区民文化センターを構成する機能と論点

室 名	議論のポイント
ホール	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 客席規模 ⇒ <u>標準は 300 席だが可能な限り席数を確保すべき</u> ◆ ホール形式、主目的（音楽／演劇・ダンス等） ◆ 舞台の拡張性（前舞台） ◆ 舞台設備の考え方 ◆ 親子室、車椅子席等の考え方 ◆ 鑑賞環境への配慮（千鳥配置、客席椅子サイズ・間隔など） ◆ 楽屋の配置・数・規模 ◆ 倉庫
音楽ルーム （リハーサル室）	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主目的（音楽／演劇・ダンス等） ◆ 発表利用を可能とするか。その場合、 <ul style="list-style-type: none"> ・客席の形状（移動観覧席／スタッキングなど） ・客席規模 ・演出の可能性（機構、照明、音響などの舞台設備の充実度合） ◆ 楽屋利用の可能性
ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 広さ（どの程度の展覧会などを想定するか） ◆ 展示対象の想定、例えば <ul style="list-style-type: none"> ・立体作品→展示壁以外の展示の可能性 ・書道→一定の天井高が必要 ◆ 間仕切りの必要性（区切って利用できる） ◆ 展示方法の簡便さ ◆ バックヤードの必要性（控え室、備品庫など） ◆ 配置・動線（施設を訪れた人の目に触れやすい配置）
練習室	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 広さ ◆ 数 ◆ 種類（電気楽器／生音／演劇・ダンス等への対応） ◆ 備品（ピアノ） ◆ 防音性能 ◆ 利用者同士の交流機能（練習室用の共通ロビーなど）
会議室	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 広さ ◆ 数 ◆ 間仕切りの必要性（区切って利用できる）
情報コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チラシ、ポスターの掲示スペース ◆ ミーティング用机・椅子、IT機器など ◆ 展示スペース（歴史・地域文化等）、図書（図書館との連携）など
その他	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 動線の考え方 ◆ リハーサル室の楽屋利用の可能性、単独利用との両立 ◆ ユニバーサルデザイン ◆ 活動支援機能（利用者用ロッカー、倉庫、作業室（コピー機、印刷機、紙折機など）、打合せスペースなど）
施設全体	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 港北区らしさ ◆ にぎわいづくり ◆ 複合施設内における配置（わかりやすさ） ◆ 文化施設としてのあり方（外観、アプローチなど）

2 施設の運営・コンセプト

①施設のコンセプトの構成要素について

第1回検討委員会の議論をもとに、「どういう場であるべきか」を議論

■3つの柱（前回意見を整理）

出会う

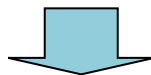
- ・身近な場所で気軽に様々な文化芸術の鑑賞や参加ができる。
- ・文化芸術を積極的に発信し、より多くの人々がまちのあちこちで文化芸術に出会う機会をつくる。

つなぐ

- ・様々な人や、異なるジャンルの団体が文化を通じてつながる。新たなコミュニティをつくる。
- ・日本や地域特有の歴史や文化を発信し、過去・現在・未来をつなぐ。

育む

- ・様々な人や文化が交流しながら、個性ある文化を生み出し育てていく。
- ・地域の文化活動の支援・育成や、地域の人材・アーティストの育成を行う。



■コンセプトイメージ（+港北区らしいフレーズなど）

⇒文化芸術を通じて、人が豊かに暮らせる、よりよい地域社会をつくる拠点

【参考】瀬谷「ふるさと瀬谷で育む文化 ～ みんながつながる、未来へつなぐ」
戸塚「まちを元気にする私たちのアートステーション」

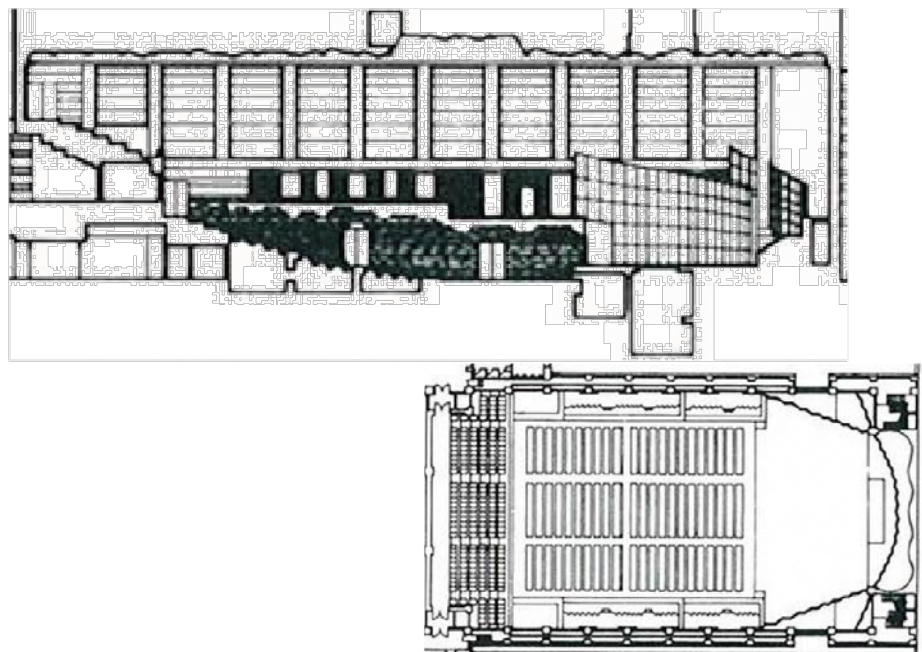
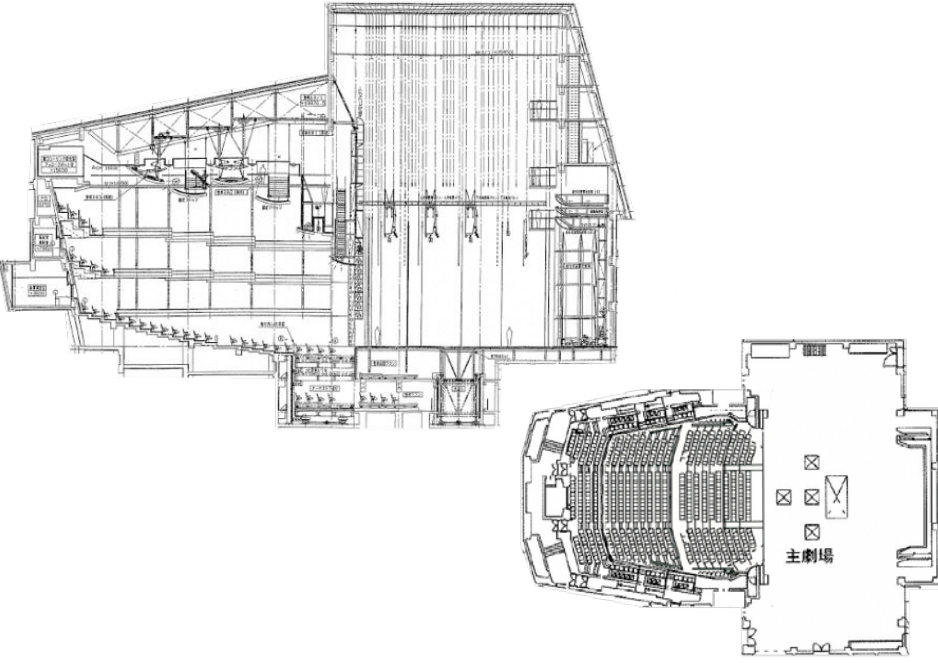
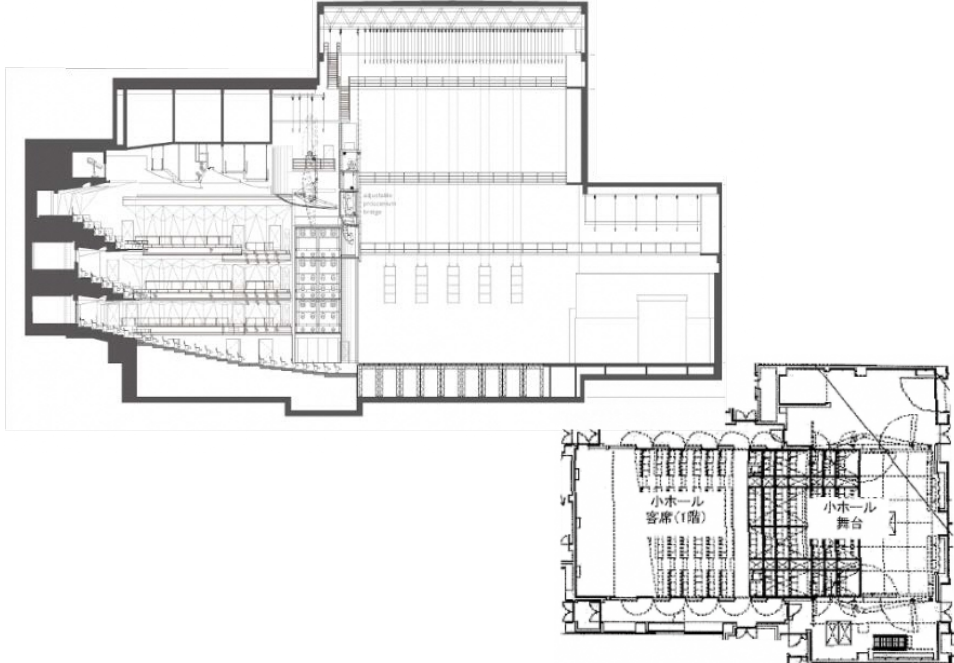
②運営の仕組みや手法について

①のコンセプトを踏まえた管理運営を行うにあたり、必要な視点やポイントを議論する。

■論点例

- ・施設運営を担う団体・人材（専門人材の配置や育成）
- ・貸館にとどまらない、自主企画事業や地域連携、人材育成の展開
（事業例）
 - ・鑑賞事業（ジャンル、価格帯、ターゲット）
 - ・参加型事業（ワークショップ・公演、企画や運営への区民参加）
 - ・人材育成（地元アーティストの育成や、地域の文化活動の支援、舞台技術の講習など）
 - ・アウトリーチ事業（地域へのアウトリーチ活動、学校・福祉施設訪問）
 - ・地域資源活用
- ・地域文化を盛り上げるための運営上の工夫（広報協力、優先利用など）

区民文化センターの分類

	音楽系ホール	多目的ホール	演劇系ホール
特徴	<p>主に室内楽やオーケストラ等、クラシックの生音を良い状態で聴くことに重点をおかれたホール。</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フライロフト（※1）を備えない。 ● 音響反射板は可動ではなく、固定の反射板を備える場合が多い。 ● 特に生音の音質を確保するために天井や壁の形状・仕上げが配慮されている。 ● 音楽を聴くのに相応しい残響時間を確保する。 	<p>音楽、演劇、コンサート、講演会、式典、集会など、様々な公演やイベントに対応することを想定されて造られたホール。</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 可動式の音響反射板を備え、電気音響から生音まで対応できる。 ● フライロフトを備える ● 演目に合わせ、プロセニウムアーチが可変するなどの柔軟性をもつホールも多い。 <p>可動式のオーケストラピットを備える場合、オーケストラピットを昇降させることで、前舞台としても利用が可能となる。</p>	<p>主に芝居や朗読など、演劇系の演目を上演することに重点をおいて設計されたホール。</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フライロフトを備える ● 音響反射板を備えない ● 役者の演技がよく見え、舞台と客席との一体感を出すために、舞台までの視距離に特に配慮されている。 ● 人の肉声を聞き取りやすい残響時間に考慮する。
参考図面			

横浜市 区民文化センターの分類

	鶴見区民文化センター サルビアホール	神奈川区民文化センター かなつくホール	港南区民文化センター ひまわりの郷	旭区民文化センター サンハート	磯子区民文化センター 杉田劇場	緑区民文化センター みどりアートパーク	青葉区民文化センター フィリアホール	戸塚区民文化センター さくらプラザ	栄区民文化センター リリス	泉区民文化センター テアトルフォンテ
	多目的ホール	多目的ホール	音楽系ホール	多目的ホール	多目的ホール	多目的ホール	音楽系ホール	多目的ホール	音楽系ホール	演劇系ホール
	プロセニウム形式	プロセニウム形式	シューボックス形式	オープン形式	プロセニウム形式	プロセニウム形式	シューボックス形式	プロセニウム形式	シューボックス形式	プロセニウム形式
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 多目的ホールその他、100席の音楽ホールを備える ● 可動式プロセニウムや音響反射板を備える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 可動式プロセニウムや音響反射板を備える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 囲みバルコニーを備える ● 舞台後部と客席の一部が昇降し、客席や舞台、オーケストラピットの3通りに変化する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平土間形式のため、展示などにも利用可能 ● 多目的ホールその他、103席の音楽ホールを備える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 可動式プロセニウムや音響反射板を備える ● 花道の設置が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 可動式プロセニウムや音響反射板を備える 	<ul style="list-style-type: none"> ● クラシック音楽を主目的に設計 ● 室内楽や小編成のオーケストラ公演に適する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音響反射板を備える 	<ul style="list-style-type: none"> ● クラシックをはじめとするアコースティックな音楽に適しており、特に弦楽器と相性が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小規模な発表も可能なりハーサル室や創作室など、創造活動に適する諸室を備える

※1 照明器具などが設置されている、劇場の舞台上方の客席から見えない空間。